

暮らしを遊ぶようにたのしむ

Kurasobi 08

2021.

ライフスタイルマガジン「くらそび」

植物といっしょ。



FELISSIMO

カタログ有効期限：2021年10月31日

life with plants

緑と暮らそう

木や森など自然を象徴する緑色は色彩心理学的にみると、調和や安心の色だそう。植物とともに日々の生活を送る人が穏やかに見えるのは、そのせいかもしれません。そこで植物が溶け込んだ毎日をおくっている人たちにインタビュー。植物との暮らし方をたずねました。

植物と仲よく暮らす人

01 植物屋 ^{フィット}fyto 寺田 悠佑さん

イベントに出店しながら、週に2回お兄さんが営む美容室「irini」で間借り営業。植物が長生きできるように土を入れ替え、かわいい植木鉢とセットで販売するスタイルが魅力。植物はオンラインショップでも購入可能。

植物のお世話をしていると 自然と自分自身が癒やされる

小さいころから植物が好きで、100円ショップで観葉植物を買って集めていました。社会人になっても植物は僕にとって癒やして、20代半ばで植物屋をスタート。お店やイベントに来てくださるお客さまが「植物を見て癒やされています」って言うのがうれしいし、再訪いただいたとき、前に買った植物の成長ぶりを教えてもらえるのもうれしい。こういった関わり方ができるようになったのは、植物屋をはじめたからこそ。人と関わるのも好きなんだと実感できたのも、植物のおかげです。

僕、植物はすべて神さまからのギフトだと思っています。観葉植物だけでなく、道を歩いていてふと目にしたところに雑草のお花が咲いているのを見ても、すごくハッピーな気持ちになる。だからお店のInstagramでも僕が見かけた雑草を紹介しています。植物屋を生業にしながら、買わなくても愛でられる雑草の魅力を発信するのは、相反する行動に

見えるかもしれないけど、僕にとっては植物屋が、雑草の魅力を知ってもらえるツールのひとつ。雑草の存在に気づいて、ハッピーを感じる人が増えたら、この仕事をしている意味はあるかなって思っています。

お客さまを見ていると、放っておいても元気な植物を選ぶ人より、お世話をしあげたいという動機で植物を選ぶ人が多い印象です。与えることによる喜びというか、自分のためではなく他者のために行動するって、結果自分のしあわせにもつながっているんですよね。だから植物を選ぶときは、どれが育てやすいかなど調べ過ぎず、直感的に好きと思えるものを選びたいと思います。動物より手軽なペットみたいな感覚でしょうか。大切にしたいものがある暮らしは、自然と自分を癒やすことにもつながりますよ。

植物屋 ^{フィット}fyto
大阪市中央区森ノ宮中央 2-3-16
OPEN 月・土曜 13:00~19:00
@fyto_





@mst_yng

03 植物店スタッフ 高柳 美里さん

京都で蛇と暮らしながら、毎日草いじり。たまに山へ出かける植物店スタッフ。植物の世話をしながら見る京都の町の景色が好き。骨董の器を植木鉢にするのにはまっている。

自分の世界を大きく豊かにしてくれる

両親は自然が好きで、私も小さなころから植物にふれていました。芸大生時代、作品づくりのために大きな植物を買ったのを機にさらに好きになりました。植物は大袈裟でなく、自分の世界を大きく、おもしろく豊かにしてくれたんです。友人が増えただけでなく、おもしろい草や景色を求め町や山を歩きまわったり、管理のために風の動きや世界の土壌や気候を調べたり。古典園芸から江戸時代の人々の生活も知ることができました。植物は人の生活とどこかで繋がっています。植物とふれ合っていれば、今後一生ひまになることはなさそうです。

骨董の器を鉢替わりに。「どうしたら植物が自分の家で過ごしやすくなるか少しだけ勉強すると付き合やすくなりますよ」



@kuma_ken

02 花屋 熊木 健二さん

大手花屋で働いた後、花植物のWEBメディアの会社に転職。再び花屋に戻り現在に至る。道端の草花に目がない根っからの植物男子。

友だちのような切っても切れない関係

園芸好きの祖父母と幼少期を過ごし、家の庭には柿の木やアケビが。ボーイスカウトもしていたので野外活動をするなか植物や生きものが好きになっていきました。やがて植物は、僕にとってかけがえのない友だちのような存在に。四季を感じさせてくれるだけでなく、うれしいとき、悲しいときにも寄り添ってくれる生きものだと思っています。季節の花とともに大切な人と過ごすまで至福の時間ですよ。花を贈ってもらくと、その花を見るたびしあわせな記憶を思い出すこともできる。花や植物は僕の生活と切っても切れない関係です。



幼少期から植物がある生活が当たり前。「今でも新芽が出たり、花が咲くと本当にうれしい」と熊木さん。



植物は1カ所にまとめて並べ、癒やしのコーナーを。ときおりベランダに運び、日光浴させているそう。

04 フェリシモ カタログ制作担当 Y・Kさん



植物も切り花も、華々しいものより素朴でさりげないものが好き。この夏はシンヤバクチャーなどを育ててみたい!と思っているそう。

いっしょに暮らす家族のような存在

部屋で植物を育てるようになったのは、ウンベラータの鉢植えをいただいたのがきっかけ。もう2倍の大きさになりました。植物ってずっと気にかけているわけではないけど、様子が気になる家族みたいなもの。めきめき成長して元気に育っているとうれしいし、調子が悪そうだと心配になるし、私の心を揺さぶる存在です。あたたかい季節はどんどん背が伸びて、新芽が生まれるけど、寒くなってくるとじっとしている。その様子はまさに自然の摂理。ありのままの姿に癒やされます。

育てやすい
植物は？



ガジュマル

とにかく丈夫で育てやすい。人間っぽく見た目も魅力で、それぞれいろんな形をしているので、好みのフォルムを探してみてもいい。



ソフォラリトルベイビー

木をそのままミニチュアにしたようなビジュアルがかわいい。日光が大好きなので日当たりのいい場所に置いてあげましょう。

土づくり

土は自分でブレンドして植え替える

観葉植物用の土の作り方

あかだまつち ふよんど かぬまつち
赤玉土：腐葉土：鹿沼土

4：2：1

排水性、保水性が高く万能といわれる赤玉土をベースにします。そこに栄養たっぷりの腐葉土、軽くて通気性が高い鹿沼土をブレンドすることで、より屋内で育てるのに適した土になります。

[植え替えの手順]



1 植木鉢の穴にネットを敷き、底全体を覆うように軽石を敷く。



2 入れ替える植物は根に土がついた状態で 1 の鉢へ。土を落とし過ぎないのが大切。



3 ブレンドした土をやさしくかぶせ、割りばしでつついて土のすき間を埋める。土の量は植木鉢の9分目が目安。



4 赤玉土をかぶせる。見た目がすっきりし、また土の表面が乾いているかどうか見分けやすくなる。

PLUS ONE!

化学肥料をプラス

植物を元気に育てるため、化学肥料の力に頼るのもひとつの方法。植え替えるとき、土に混ぜ込むだけでいい肥料が園芸ショップなどで手に入ります。

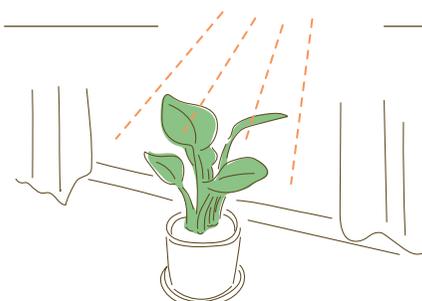


使ったシート /
Kraso 植え替え作業で土が床にこぼれない
ガーデニングトレイシートセット

水やり

水やりは土の表面が乾いてから

かわいい鉢植えにはマメに水をあげたくなりますが、あげ過ぎは枯れる原因に。季節や環境により必要な水の量は変わるので「3日に1回」などと決めず、土の表面が乾いてきたとき、受け皿に水が出てくるまでたっぷり水やりします。受け皿にたまった水は捨てましょう。



fyto寺田さんから教わりました

植物と仲よく暮らすコツ 1

鉢植えを買うときの選び方、おうちに迎え入れる準備の仕方、育て方のポイントを紹介。

まずは！ 選び方

植物は買うときにしっかり吟味

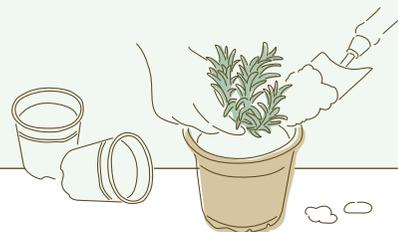
[新芽が出ているのは元気な証拠]

観葉植物を買いに行った際、お店にはたくさんの鉢植えが並んでいます。迷ったときは新芽が出ているものを選びましょう。新しい芽があるということはその植物が元気な証拠です。



[鉢は余裕のあるサイズが正解]

植物は常に成長します。根がある程度伸びても大丈夫なように、植木鉢は余裕があるサイズを選んでおくと安心です。



陽ざし

窓越しに光が当たる場所がベスト

植物により多少異なりますが、基本的には室内用の観葉植物でも太陽の光は欠かせません。日当たりのいい窓辺に置いてあげると植物は喜びます。間取りの関係でむずかしい場合は水やりのタイミングで屋外に出して日光浴を。

植物と仲よく暮らすコツ 2

暮らしに溶け込む、植物の飾り方をご紹介します。

ミニポットを マクラメでつるす

鉢を引っ掛け、つるして飾るマクラメのハンキング。ルビーネックレスやグリーンネックレスなど垂れ下がる植物との相性は抜群です。



添え木の代わりに 流木を使う

つる性の植物や背の高い植物には添え木があると便利。園芸ショップで買える専用のものではなく、インテリア用の流木で代用するとグッとおしゃれな印象になります。

小さなガラスびんに飾る

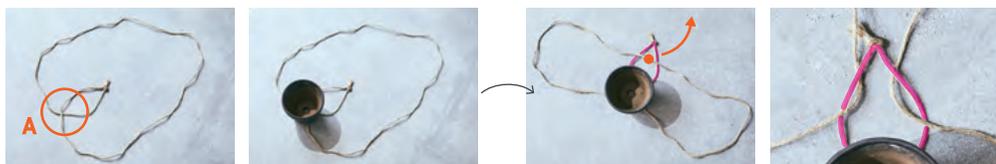
庭に咲いている雑草やキッチンで育てているハーブを小びんに生ければ、素敵なインテリアに。花屋さんでお花を買ったり花びんを用意する必要がないため、手軽に楽しめます。



マクラメのハンキングの作り方

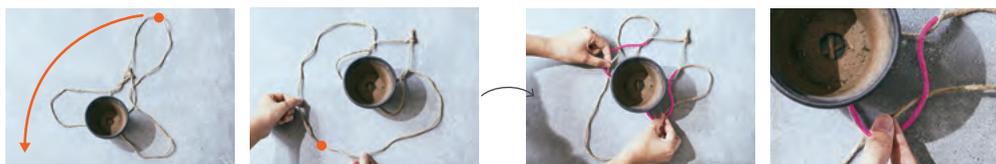
【用意するもの】 素焼きの小さい植木鉢、麻ひも、S字フック

※麻ひもと素焼きの植木鉢の組み合わせは安定しやすいのでおすすめ。ひもが引っかけられるよう縁に出張りがあるものが最適です。※鉢は重いのでマクラメ初心者はまずミニサイズで作りましょう。



1 麻ひもで輪っかを作り床に置く。手前を1度ひねって小さな輪をつくり、Aの位置に鉢を置く。

2 輪っかの両脇を左右に広げ●の部分で赤で囲った輪の下からくぐらせる。



3 ●の部分引っ張り上げてから手前に持ってくる。

4 手前に持ってきた麻ひもを赤で囲った輪の下からくぐらせる。



5 そのまま左右にやさしく引っ張り、鉢の出張りに引っかけて、安定するように調整する。

できあがり

押し花の作り方

摘みたての花をティッシュと新聞ではさみ、辞典や分厚い本にはさんでください。パンジーやビオラ、カスミソウなど、水分が少なく花弁が薄いものがつくりやすい。

押し花やドライにして 長く楽しむ

乾燥させて押し花やドライフラワーにすると、生花のままより長く楽しめます。しおりに仕立てたり、メッセージカードに貼り付けたりすると、ちょっとしたギフトにぴったり。



こんな楽しみ方も!

